ユネスコスクール（ASPnet）

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
UNESCO Associated Schools

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：２０１２年４月～２０１３年３月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、ＨＰ等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

１．学校概要

学校名　　気仙沼市立浦島小学校

種別　□保育園・幼稚園　■小学校　□小中一貫教育
□中学校　□高等学校　□中等高等学校
□教員養成　□技術/職業教育
□その他（　　）

住所　〒９８８－０８１６
宮城県気仙沼市二ノ浜８３－２

E-mail：ura-s5@coda.ocn.ne.jp

Website：http://www.k-macs.ne.jp/~ura-s5/

児童生徒数：男子　４　名　女子　３　名　合計　７　名
児童・生徒の年齢　１０　歳～１２　歳

２．担当者

３．実施活動（複数選択可）

□　地球規模の問題に対する国連システムの理解
□　国際理解
□　世界遺産
□　平和・人権
□　環境
□　気候変動
□　生物多様性
□　エネルギー
■　防災
■　食育
□　伝統文化
■　そのほか（地域理解）

４．活動概要

１年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付資料をつけていただいても構いません）。

活動時間について（下記から選択して下さい。）

■　通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

□　時間外活動の時間を使用　　□　ユネスコクラブの活動として実施

□　その他（　　）

１　防災・安全

（１）　仮設住宅の方々と合同で行った火災訓練

①　中心教科・領域：特別活動（学校行事）

②　育てたい力：コミュニケーションを行う力，他者と協力する態度，つながりを尊重する態度

③　プログラムの概要

本校は校庭に仮設住宅が建設されているため，万が一学校が出火場所となった場合には，仮設住宅の方々にも避難をしていただくことになる。そこで，昨年度より火災避難訓練においては，仮設住宅の方々と合同で実施している。今年度は昨年度と出火場所を変え，第１次，第２次避難場所も変更して行った。防災主任の役割（仮設住宅の方々の人数把握・報告等）も明確にしながら進めた。

（２）　体験を重視した津波避難訓練

①　中心教科・領域：特別活動（学校行事）

②　育てたい力：批判的に考える力，多面的，総合的に考える力

③　プログラムの概要

今回は，以下のような体験活動を取り入れた。

○南登校坂入り口（津波浸水域）から漁港までの道のりを実測し，測定結果から津波の到達時間を導き出す。

○避難場所に指定されてはいたが津波が到達した場所，津波が到達しなかった場所を確認し，津波の速さと高さの関係を知る。

○自分の歩幅で海岸から高台への避難にどのくらいの時間を要するかを計測する（全児童）。

体験を多く取り入れたかったので，実施時数を１時間から２時間に変更し，計画立案した。実施後の児童の感想には「津波の速さと高さの関係が分かった」「津波は速いので，すぐ高台に避難したい」という感想もあり，実感を伴った訓練となった。

２　地域理解・環境

（１）　復興したワカメ養殖体験

①　中心教科・領域：総合的な学習の時間

②　育てたい力：多面的，総合的に考える力，コミュニケーションを行う力，つながりを尊重する態度

③　プログラムの概要

今回の震災において，大きな被害を受けた養殖漁業であるが，地域の方々の力強い歩みにより，復興が進んでいる。そんな地域の方々の協力を得，今年もワカメの養殖について学習を展開することができた。体験としては，「種付け」「成長の観察」「刈り取り」そして「加工場の見学」を行った。学習の成果は，「『総合的な学習の時間』発表会」において，保護者や地域の方々へ発信した。地域の再生を肌で感じること，そして，復興へ歩みを続ける地域の方々の姿を目の当たりにすることは，夢と希望をもって生き，これからの時代を背負う児童によりよい影響を与えると考える。

３　実践の成果

（１）プログラム改善の視点から

①「ＥＳＤで育てたい力」から活動計画を見直し，実践したことで，評価の視点が明確になった。

②複数の体験活動を系統的に位置付けたことにより，実感を伴った活動を展開することができた。

（２）児童生徒の変容（資質・能力・態度）の視点から

①何が大切かを考え，判断し，命を守るために適切に行動しようとする意識が高まった。

②自分の思いや考えをしっかりと伝えることができるようになった。

③仮設住宅の皆さんに感謝の気持ちをもち，関わりを大切にしながら活動に取り組むようになった。

（３）教師や保護者，地域住民の意識の変容の視点から

①地域，仮設住宅の方々に，より多く学校行事等に参加してもらえるよう，積極的に情報を発信している。

②学期初めと学期末に，仮設住宅や近隣の方々が校舎の清掃奉仕作業をしてくださるなど，今まで以上に学校に対して協力をいただけるようになった。

４　次年度に向けた課題

（１）活動プログラムの成果や課題の共有

（２）本校ＥＳＤ活動の鹿折小学校への引き継ぎ

活動の内容を補完する以下の資料があれば添付願います。※公表しません

□　紙媒体の参考資料（新聞、出版物など）　□　CD-ROM　　□　写真

□　その他（　　）